

心身ともに健康で暮らせる地域の医療環境へ



第23期 2014年4月1日▶
2015年3月31日

株主通信



SHIP HEALTHCARE

シップヘルスケアホールディングス株式会社

生命を守る人の環境づくり



代表取締役会長(CEO)

古川 國久



代表取締役社長(COO)

小川 宏隆

『進化』と『成長』はとまらない

ごあいさつ

株主の皆さまにおかれましては、平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

当社グループは、連結売上高1兆円を長期目標として、その達成に向けて事業基盤・スケールの拡大に取り組んでおります。また、この挑戦を力強く推進していくために、経営体制の刷新、公募増資などによる財務基盤の強化を実行いたしました。今後も、既存事業の増強に加え、新たな事業分野である「ヘルスケアサービス事業」を第5の柱と定め、その展開を加速させてまいります。

現在、当社グループを取り巻く環境は、診療報酬の見直しや、消費税増税、電気料金の値上げなどによる病院経営の圧迫、介護報酬の大幅なマイナス改定など、医療・介護領域とも非常に厳しい状況となっております。しかしながら一方では、都道府県単位で2025年に向けて目指すべき医療提供体制を定める地域医療構想の策定など大きな構造改革が動き出し、新たな市場も形成されつつあります。また、東南アジア地域を中心に所得水準が向上し、先端医療ニーズが高まるなど、海外市場も拡大しチャンスは広がっております。

こうした中、当社グループは人材育成をはじめ事業遂行の基礎力を拡充するとともに、大型・複合化する案件に対して、構想・企画力そしてプロデュース力などをさらに高め総合力の向上に努めてまいります。また、業容拡大のためにM&Aを積極的に行なうとともに、グループガバナンスの強化、サービス品質を担保する業務管理体系強化を通して、揺るぎない体制のもと長期目標の達成を目指してまいります。

株主の皆さまには、今後とも変わらぬご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

グループ理念

SHIP

Sincere (誠実な心) Humanity (「情」の心) Innovation (革新者の気概) PartnerSHIP (パートナーシップ精神)

グループミッション

生命を守る人の環境づくり

基本姿勢

し せい そく だつ
至 誠 惻 怛

「至誠」はまごころ、「惻怛」はいたみ悲しむ心を表し、この心を兼ね備えて生きることが人間としての生きる基本姿勢であり、当社グループの基本姿勢です。

2015年Key Word

みんな仲良く!!

基盤づくりと次なる“旬”

業績について

増収減益の結果となる

当期の状況といたしましては、トータルバックプロデュース (TPP) 事業が当初計画通りプロジェクト案件数を順調に伸ばしたことに加え、メディカルサプライ (MSP) 事業の新規案件の獲得、昨年度のM&A効果などにより、売上高は前年同期比5.5%増の2,733億円となりました。一方、利益面につきましては、円安の進行に伴う輸入部品価格の高騰や建築費の上昇に加え、ライフケア事業 (旧ヘルスケア事業) における入居計画の未達や新規施設の開設費用の計上などにより、営業利益は前年同期比1.9%減の135億円となりました。このように増収減益となりましたが、当社グループでは、今後グループ体制及び事業基盤の強化に努め、収益力の強化を図ってまいります。

なお、当期の配当につきましては普通配当48円に加え、上場10周年の記念配当7円を合わせ、1株当たり55円とさせていただきます。

■ 業績結果

(単位：百万円)

	2014/3	2015/3	増減率	期初予想 (2014年5月8日 発表)
売上高	259,189	273,327	5.5%	280,000
営業利益	13,857	13,597	1.9%	14,600
経常利益	14,754	13,910	5.7%	15,000
当期純利益	8,523	7,472	12.3%	8,800

グループ経営基盤の整備・強化

ガバナンス、業務管理系を強化

現在、当社グループは大幅な業容拡大に向けて、その大前提となるグループ経営、事業基盤の整備に全力で取り組んでおります。その内、当面の重要な課題と捉えているのがグループガバナンス及び業務管理系の強化です。設立以来、業容拡大、総合力の拡充に対応していくために、多くのM&Aを実施してまいりました。その結果、現在40社のグループまでに成長しております。各グループ会社は、当社の経営方針であります“自立自主”のもと業績を伸ばして来ておりますが、「SHIP」の理念を唱えるグループとして、各社の連携と企業理念の共有に努めております。また、グループ会社が増え、従業員数も増え続ける中で、「Your Company」としてあり続け、パートナー (お得意先) へのサービス品質を保ち続けるには、業務管理系の強化が必要です。この視点から当期MSP事業におけるロジ系の業務管理体制を整備いたしました。当社グループは、長期目標の達成を目指し、基礎固めを加速しております。

■ 当面の課題



今後の方向感

“面”の獲得と“旬”への注力

2025年に向けた、医療保険と介護保険の連携・融合を通じた社会保障制度の大きな改革が動き出しており、個々の医療機関単体での議論から地域全体の医療サービスのあり方へ議論が移り変わってきております。また、こうした状況下、当社グループは、各事業において連携しながらグループ一丸となってサービス力を向上させ、地域医療を支えることを目指して、“面”の拡大に注力してまいります。

一方、“旬”のビジネスについては、海外案件への継続した取り組み、重粒子線がん治療施設プロジェクトに代表される新たな分野への進出、また、この度新規上場いたしましたヘルスケア施設特化型投資法人「ヘルスケア&メディカル投資法人」のような新たなビジネスモデルにも注力してまいります。

当社グループは、こうした取り組みを通じて既存事業における“面”の拡大と“旬”として取り組む各種事業を集約し、第5の柱を育成してまいります。

■ 第5の柱



※ 2016年3月期よりヘルスケア事業の名称をライフケア事業といたします

「ヘルスケア&メディカル投資法人」が上場

ヘルスケア施設の効率的な整備のために

社会的なニーズの広がり及び、規模の拡大が期待される介護・医療業界と資本市場の橋渡し役として、当社グループと三井住友銀行、NECキャピタルソリューションの共同により立ち上げました「ヘルスケア&メディカル投資法人」が、2015年3月19日、東京証券取引所 不動産投資信託証券市場（リート市場）に上場いたしました（証券コード3455）。

一般的に介護施設は、オフィスビルや賃貸マンションと比較し流通市場が十分に整備されておらず、継続保有が前提となるため開発の手法は限定的になっておりました。このような状況に対し、ヘルスケアリートのスキームを活用することで、これまで以上の施設の供給促進が期待できるようになります。

現在、同投資法人では、介護施設を中心に運用を行っておりますが、今後国土交通省が病院不動産を対象とするリートの活用に係るガイドラインをとりまとめる予定となっております。それに伴いまして、将来は投資先が広がっていく見込みとなっており、今後さらなる当社事業とのシナジーを見込んでおります。

上場記念打鐘の様子



重粒子線がん治療施設プロジェクトが順調に進行

新会社設立と着工に向け、最終調整段階

当社グループが第5の柱として重点的に育成しております「ヘルスケアサービス事業」の一環として、その中心的な事業とも言える重粒子線がん治療施設プロジェクトが新会社設立と着工に向け、最終段階に入っております。

当プロジェクトは、大阪府立成人病センターの建て替えに伴い、当社グループがコンペにより事業参画を果たしたもので、2018年の開院を目指しており、開院後は当社グループが建物・装置の所有、施設の管理などの事業運営全般を担う予定となっております。重粒子線治療は従来に比べ体への負担が軽い治療法となっており、当プロジェクトを通じて日本最先端の技術・施設経営ノウハウの獲得が期待できるとともに、今後のビジネスシナジーを見込んでおります。

当社グループでは、これまでTPP事業を中心に多面的に事業を展開してきたノウハウ、また作り上げてきたハードとソフト、自社メーカー機能をパッケージ化し、総合力をもって第5の事業の確立に努めてまいります。

重粒子線がん治療施設（完成予想図）



海外プロジェクトが徐々に具体化

高度化する医療ニーズにトータルプランニングで応える

日本の高度医療の海外輸出を促す動きが活発化してきている中、当社グループではこれに応える形でアジア地域を中心として積極的に事業を展開しております。

直近の状況といたしまして、ミャンマーにおける日本式医療拠点整備事業においては、現地法人を設立後に透析事業を開始し、現在患者の受け入れが始まっております。今後は透析装置の拡大、内視鏡やCT施設の運営といった機能強化を進めてまいります。

バングラデシュにおきましては、現地病院と提携し、病院の建設・運営サポートを行うための最終調整段階となっております。また、メーカー系につきましても、海外に向けたショールームの展開などを積極的に行うことで、今後の事業基盤づくりに努めております。

このように当社グループでは、日本国内にとどまらずグローバルな視点から次なる“旬”を求め、アジア地域での経験と情報収集を足掛かりに、今後も新たな事業機会の創出に努めてまいります。

海外展開の状況



「シップ仙台ビル」が本格稼働

創業の理念を胸に、
地域医療へ貢献する

当社グループが東北地域の事業拠点として位置付ける「シップ仙台ビル」が昨年7月にオープンし、本格的に稼働を開始いたしました。

延床面積約2万㎡、高さ53.8mを誇る本プロジェクトは、東日本大震災以前に開始されました。震災後、多くの企業が被災地から撤退を余儀なくされる中、当社グループは復興支援事業として本プロジェクトを推進し、途中資材・人材不足などもある中、無事オープンすることが出来ました。

近年の高齢者人口の増加に伴い、ニーズに応じた機能分化や医療と介護の連携が求められている中で、「シップ仙台ビル」では、有料老人ホームをはじめ、医療モールや調剤薬局も設置しており、地域包括ケアシステムを視野に入れた取り組みを行っています。当社グループでは、これからも時代の要請に的確に応えることで、業界のリーディングカンパニーとして地域医療の発展に貢献してまいります。

施設外観(シップ仙台ビル)



各種メディアにグループの基本姿勢を掲載

新聞広告・テレビで
「至誠惻怛」の精神をPR

当社グループでは、基本姿勢である「至誠惻怛」のPRを目的に、2015年3月21日付、山陽新聞(朝刊)にて新聞広告を出稿するとともに、テレビでは、3月28日にBSジャパンで当社グループ提供による「山田方谷と三島中洲 今に生きる志」を放送いたしました。

テーマとしている「至誠惻怛」は、幕末の備中松山藩の財政を立て直した陽明学者 山田方谷の言葉で、「至誠」はまごころ、「惻怛」はいたみ悲しむ心という意味を表しております。

今後日本が超高齢化社会に突入することに伴い、医療・介護業界では様々な困難が待ち受けております。そのような中、誠実な心で互いの痛みを分け合い、助け合うことを説く「至誠惻怛」の考え方は、時代を越えて現代にも通じる精神であると考えております。

当社グループでは、この「至誠惻怛」で成り立つ医療人としての信頼を基本に、「生命を守る人の環境づくり」を通して、日本の地域医療、そして世界の医療環境の強化へと貢献してまいります。

新聞広告



2015年3月21日付 山陽新聞(朝刊)

金剛山研修が117回目を迎える

人材育成は未来への投資

当社グループでは長年教育研修に力を入れており、西日本のグループ社員を対象に行っている金剛山研修が通算117回目を迎える事が出来ました。金剛山研修は、グループ理念「SHIP」の次世代への継承と、人の命に関わる事業を営む企業として必要な人間力を養う上で重要な意味を持っております。

登山では、登り切った時の達成感はもちろん、グループのまとまりとチームワークが生まれます。また座学では何時間にもわたる意見交換や、自分の立ち位置を認識した上での目標設定などを行い、時間をかけてじっくりと自らを見直す機会としております。

当社グループでは、社員を一人前に育てるまで10年程度を目安に教育を行い、一人ひとりに合った方向性を考えながら本物の人間力を育成しております。即戦力を求めるあまりに基礎づくりがおろそかになりがちな時代の中で、人材育成こそ未来への投資と考え、今後も注力してまいります。

金剛山研修の様子



連結貸借対照表

	当 期 2015年3月31日現在	前 期 2014年3月31日現在	前期比 増減額
【資産の部】			
流動資産	136,051	112,959	23,091
現金及び預金	38,676	22,278	16,397
受取手形及び売掛金	72,636	70,955	1,681
電子記録債権	1,373	830	543
リース投資資産	4,365	766	3,598
商品及び製品	8,292	7,805	486
仕掛品	1,902	1,575	327
原材料及び貯蔵品	755	858	△ 102
繰延税金資産	1,442	1,527	△ 85
短期貸付金	1,741	1,835	△ 94
その他	4,968	4,648	319
貸倒引当金	△ 101	△ 122	20
固定資産	66,430	60,433	5,997
有形固定資産	38,135	33,176	4,959
建物及び構築物	13,518	9,521	3,997
機械装置及び運搬具	270	252	18
土地	8,595	8,455	139
貸与資産	31	38	△ 7
賃貸不動産	12,706	10,922	1,783
建設仮勘定	750	2,439	△ 1,688
その他	2,261	1,545	716
無形固定資産	11,223	11,081	141
のれん	10,173	10,385	△ 211
その他	1,049	696	353
投資その他の資産	17,071	16,175	896
投資有価証券	5,030	3,775	1,254
長期貸付金	7,195	7,718	△ 523
退職給付に係る資産	508	289	219
繰延税金資産	989	1,246	△ 257
破産更生債権等	187	117	70
差入保証金	4,479	4,357	121
その他	1,159	578	581
貸倒引当金	△ 2,478	△ 1,908	△ 569
繰延資産	80	—	80
株式交付費	80	—	80
資産合計	202,562	173,393	29,169

(単位：百万円)

	当 期 2015年3月31日現在	前 期 2014年3月31日現在	前期比 増減額
【負債の部】			
流動負債	89,160	97,884	△ 8,724
支払手形及び買掛金	66,707	72,484	△ 5,776
電子記録債務	4,614	1,154	3,459
短期借入金	1,590	6,687	△ 5,097
1年内返済予定の長期借入金	3,807	3,877	△ 70
未払法人税等	3,316	3,927	△ 611
繰延税金負債	8	11	△ 3
賞与引当金	1,464	1,555	△ 90
工事損失引当金	6	11	△ 4
その他	7,644	8,173	△ 528
固定負債	37,538	27,887	9,651
社債	2,060	2,650	△ 590
長期借入金	29,569	20,245	9,324
退職給付に係る負債	1,914	2,038	△ 123
繰延税金負債	635	480	154
資産除去債務	288	245	43
その他	3,069	2,227	842
負債合計	126,698	125,771	927
【純資産の部】			
株主資本	73,727	46,192	27,535
資本金	15,553	5,855	9,697
資本剰余金	20,385	10,224	10,161
利益剰余金	38,236	32,461	5,774
自己株式	△ 447	△ 2,349	1,901
その他の包括利益累計額	1,580	981	598
その他有価証券評価差額金	1,326	828	497
為替換算調整勘定	200	126	73
退職給付に係る調整累計額	54	26	27
少数株主持分	555	447	108
純資産合計	75,864	47,621	28,242
負債純資産合計	202,562	173,393	29,169

連結損益計算書

(単位：百万円)

	当 期 2014年4月1日～ 2015年3月31日	前 期 2013年4月1日～ 2014年3月31日	前期比 増減額
売上高	273,327	259,189	14,137
売上原価	238,205	225,632	12,573
売上総利益	35,121	33,557	1,564
販売費及び一般管理費	21,523	19,699	1,824
営業利益	13,597	13,857	△ 260
営業外収益	1,169	1,347	△ 178
営業外費用	855	451	404
経常利益	13,910	14,754	△ 843
特別利益	63	4	59
特別損失	253	191	62
税金等調整前当期純利益	13,720	14,567	△ 846
法人税、住民税及び事業税	5,934	6,101	△ 167
法人税等調整額	224	△ 107	332
少数株主損益調整前当期純利益	7,562	8,573	△ 1,011
少数株主利益	89	50	39
当期純利益	7,472	8,523	△ 1,050

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	当 期 2014年4月1日～ 2015年3月31日	前 期 2013年4月1日～ 2014年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,682	13,796
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 6,995	△ 8,293
財務活動によるキャッシュ・フロー	21,817	△ 2,166
現金及び現金同等物に係る換算差額	17	105
現金及び現金同等物の増減額	16,522	3,442
現金及び現金同等物の期首残高	21,233	17,790
現金及び現金同等物の期末残高	37,755	21,233

■ 主な経営指標の推移 [日本基準] (連結)

(単位：百万円)

	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3	2015/3	2016/3 (予想)
売上高	162,432	188,839	224,363	259,189	273,327	300,000
営業利益	7,856	10,132	12,544	13,857	13,597	14,800
経常利益	8,850	11,251	13,589	14,754	13,910	15,100
当期純利益	5,931	7,026	8,589	8,523	7,472	8,300
総資産	116,822	129,989	144,389	173,393	202,562	—
純資産	30,035	35,256	42,547	47,621	75,864	—

■ セグメント情報 (2014年4月1日～2015年3月31日)

トータルパックプロデュース事業

トータルパックプロデュース事業におきましては、プロジェクト案件は予定通りに完成いたしました。また、建築費の高騰や工事の遅れ、円安による輸入部品価格の高騰などの影響がありました。また、海外での新規事業につきましては、ミャンマーにおいて子会社を設立し、事業を開始いたしました。以上の結果、売上高は101,574百万円(前年同期比5.7%増)、営業利益は9,826百万円(同4.9%増)となりました。

メディカルサプライ事業

メディカルサプライ事業におきましては、SPD施設の新規受託の獲得やM&Aにより増加した会社の業績が寄与したものの、在庫管理効率化のためのシステム投資などに伴う費用が発生いたしました。以上の結果、売上高は128,112百万円(前年同期比5.7%増)、営業利益は1,882百万円(同12.7%減)となりました。

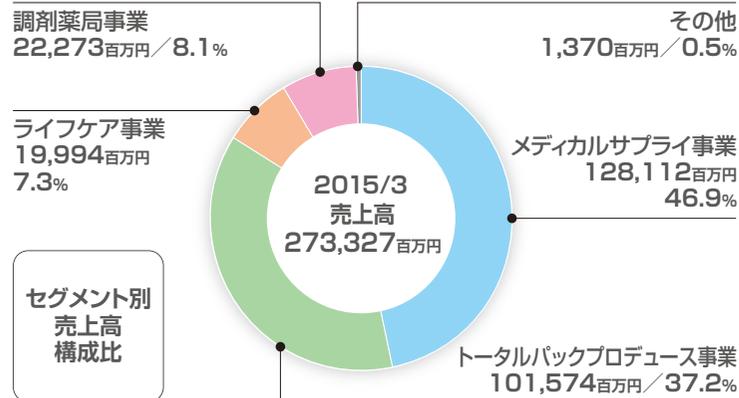
ライフケア事業

ライフケア事業におきましては、有料老人ホームの入居者数は積み上がったものの、計画に対しては未達となりました。また、デイサービス拠点の運営における稼働率が伸び悩むとともに、大型施設であるグリーンライフ仙台などの新規開業費用が増加いたしました。以上の結果、売上高は19,994百万円(前年同期比5.9%増)、営業利益は191百万円(同66.8%減)となりました。

※ 2016年3月期より「ヘルスケア事業」から「ライフケア事業」へ名称変更

調剤薬局事業

調剤薬局事業におきましては、新規店舗の出店などにより売上高が増加し、管理部門の集約などにより事務コストを削減いたしました。消費増税による費用が増加いたしました。以上の結果、売上高は22,273百万円(前年同期比1.9%増)、営業利益は1,847百万円(同6.4%減)となりました。



セグメント別
売上高
構成比

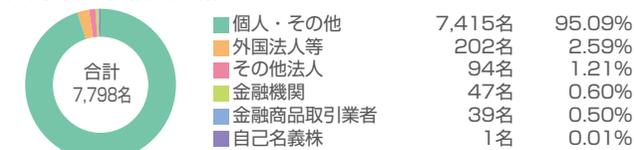
■ 株式の状況

(2015年3月31日現在)

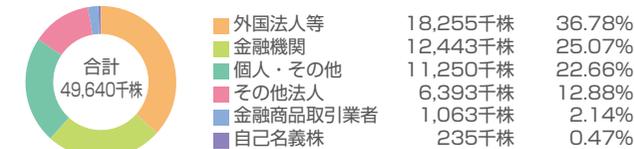
発行可能株式総数	64,000千株
発行済株式総数	49,640千株
株主数	7,798名

■ 株式分布状況

株式分布状況 (株主数別)



株式分布状況 (株式数別)



※ 株式数は、千株未満を切り捨てて表示しております。

■ 大株主の状況

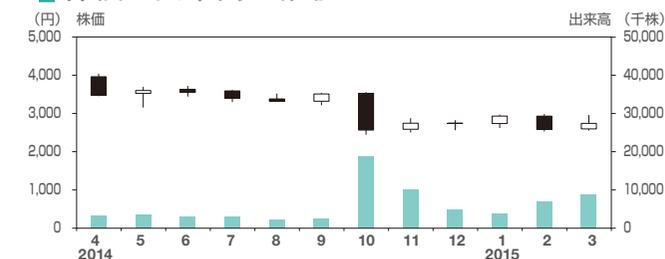
[保有株式数] [持株比率]

株主名	保有株式数 (千株)	持株比率 (%)
株式会社コッコー	3,988	8.07%
CBNY-ORBIS SICAV	3,432	6.95%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,151	4.36%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,145	4.34%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	1,513	3.06%
春日興産同合会社	1,400	2.83%
古川 國久	1,236	2.50%
古川 幸一郎	1,230	2.49%
THE CHASE MANHATTAN BANK 385036	1,075	2.18%
CBNY-GOVERNMENT OF NORWAY	965	1.96%

※ 株式数は、千株未満を切り捨てて表示しております。

※ 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

■ 株価・出来高の推移



会社情報

■ 会社概要 (2015年3月31日現在)

商号 シップヘルスケアホールディングス株式会社
 設立 1992年8月
 代表取締役会長 (CEO) 古川 國久
 代表取締役社長 (COO) 小川 宏隆
 資本金 155億5,301万円
 決算月 3月
 従業員数 連結3,800名(正社員)
 本社所在地 〒565-0853
 大阪府吹田市春日3丁目20番8号
 TEL : 06-6369-0130
 FAX : 06-6369-3191

■ 役員 (2015年6月26日現在)

代表取締役会長 (CEO)	古川 國久
代表取締役社長 (COO)	小川 宏隆
代表取締役副社長	大橋 太一
専務取締役	沖本 浩
専務取締役	増田 順
専務取締役	小林 宏行
常務取締役	横山 裕司
常務取締役	細川 賢治
取締役 (社外)	山本 義昭
常勤監査役 (社外)	岩元 廣志
社外監査役	中尾 秀光
社外監査役	大山 博康
社外監査役	大内 陽一郎

株主メモ

事業年度 4月1日～3月31日
 期末配当金受領 3月31日
 株主確定日
 定時株主総会 毎年6月中
 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
 TEL 0120-094-777 (通話料無料)
 特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社 (旧 クリーンホスピタルサプライ (株) の株主様)
 みずほ信託銀行株式会社 (旧 (株) セトラルユニの株主様)
 同連絡先 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号
 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
 〒168-8507 東京都杉並区和泉2丁目8番4号
 上場証券取引所 東京証券取引所
 公告の方法 電子公告により行う
 公告掲載URL <http://www.shiphd.co.jp/>
 (ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三井住友信託銀行並びにみずほ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記連絡先にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

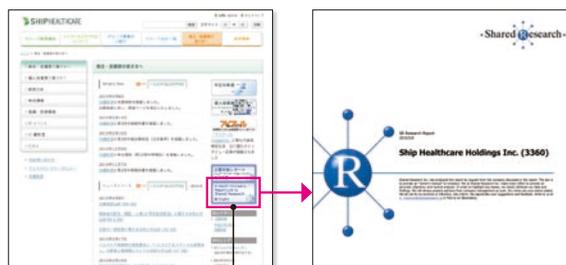
お問い合わせ・資料請求等は、下記まで・・・

シップヘルスケアホールディングス株式会社

〒565-0853 大阪府吹田市春日3丁目20番8号
 TEL : 06-6369-0130 (IR窓口) FAX : 06-6369-3191

URL (ホームページアドレス)

<http://www.shiphd.co.jp/>



IR Info ▶ In-depth Company Report Link to Shared Research

For Foreign Investors

SHIP HEALTHCARE HOLDINGS, INC. provides English financial report produced by Shared Research Inc. Please check [http://www.sharedresearch.jp/en/Ship_Healthcare_Holdings\(3360\)](http://www.sharedresearch.jp/en/Ship_Healthcare_Holdings(3360)) to view the report.

アンケートのお願い

当社では、株主の皆さまからいただいたご意見を誠実に受け止め、今後の経営及びIR活動に活かしてまいりたいと考えております。皆さまからの貴重なご意見をお待ちしております。なお、本アンケートを当社ディスクロージャーの充実以外の目的には利用しないことをお約束いたします。

Q1 当社株式をいつ頃ご購入されましたか?

- ① 1ヶ月以内
- ② 2～5ヶ月前
- ③ 6ヶ月以上前
- ④ 1年以上前
- ⑤ 株式上場時(2005年2月)

Q2 当社株式の今後の保有方針をお教えてください。

- ① 中長期的に保有する
- ② 短期で考えている
- ③ 買い増しする
- ④ 投資収益に応じて売却する
- ⑤ 未定

Q3 当社経営に関して、何を重視すべきと思われますか? (上位3点をお選びください)

- ① 規模の拡大
- ② ビジネスモデルの強化
- ③ 経営の効率化
- ④ 収益性
- ⑤ 安定性
- ⑥ 株主政策の強化
- ⑦ その他()

Q4 当社のIR活動に関して、何を重視すべきと思われますか?

- ① 株主通信
- ② ホームページ
- ③ 株主総会
- ④ 個人投資家向け説明会の開催
- ⑤ その他()

Q5 今回の株主通信でご興味を持たれた内容は何ですか?

- ① マネジメントメッセージ
- ② トピックス
- ③ 連結財務諸表
- ④ 業績の概要
- ⑤ 株式関連情報及び会社情報

Q6 今回の株主通信をどのようにご評価されますか?

- ① 大変満足している
- ② ある程度満足している
- ③ 普通
- ④ あまり満足していない
- ⑤ 不満である

Q7 その他、ご意見・要望等をご自由に記入ください。